



# 月刊部品新聞

2010年8月 第56号

編集・発行 Unit

## スポーツ立国戦略

8月26日に文部科学省から「スポーツ立国戦略」が発表されました。今回はこの内容と私なりの考えを述べさせていただきます。と思います。

### 概略として

まずスポーツ立国戦略の目指す姿として、「新たなスポーツ文化の確立」というものがあります。

これを実現するための基本的な考え方として、「人の重視」と「連携・協働の推進」があり、今後概ね10年間で実施すべきこれらの具体的な内容として「ライフステージに応じたスポーツ機会の創造」、「世界で競い合うトップアスリートの育成・強化」、「スポーツ界の連携・協働による『好循環』の創出」、「スポーツ界における透明性や公平・公正性の向上」、「社会全体でスポーツを支える基盤の整備」の5つが考えられています。

### 言葉の曖昧さ

この策定を読んでいて私がどうも引つかかる部分がある。「スポーツ」と

いう単語です。あえて日本語にするとすれば、規則に則り、「タ・テ・コ・ス・マ\*」の総合力としての競技力を競う「運動競技」となるのではないかと思います。

しかし出てくるスポーツをすべて運動競技と置き換えてみると、違和感が出てくる部分が出てきます。

例えば「スポーツ界における」ではあまり違和感を感じないのですが、「ライフステージに応じた」や「社会全体で」ではちよつと意味合いが異なる感じがします。この場合は体を動かすという意味の「運動」と考えるべきところだと思えます。運動を英語では Exercise となり、決して Sport ではありません。

この策定の中には「トップスポーツ」、「地域スポーツ」と言葉が分かれていますが、単に「スポーツ」としか述べられていないところも多数あります。その2つを包括的に示しているところもあれば、それぞれの意味合いで使われているところもあります。つまりこの策定内で「スポーツ」は3つの異なる意味を持つてしまっているのです。この違いをはっきりと

させることで、より直感的に理解ができるようになるのではないかと思います。

### 新たな文化の確立

この策定の中にはいろいろな具体案も出ていますが、「新たなスポーツ文化の確立」という事であれば、既存のシステムをいかに壊して作り直すかということに非常に大切になってきます。

これは既存のシステムを大胆に壊すという一つの案として教師の部活における指導の全面禁止などはどうでしょうか。

自分でも大胆すぎるとは思いますが、反対される方も多いと思えます。

指導者として立派に活動されている方も多くいますが、教師は部活の指導ではなく、教育を行うことが本来の仕事ではないかと思えます。

運動競技を通じて教育を行うという考え方もありますが、それでは運動競技をしない生徒は教育ができないことになってしまいます。もし指導者として競技に携わりたいのであれば、専門職として活動すればいいのではないのでしょうか。そうならば自然淘汰的に優秀な指導者が残り、

質の高い指導が全国的に行われるようになり、自然と国際的な競技力も向上していくのではないのでしょうか。もちろんその部分を総合型地域スポーツクラブが担ってもいいのではないかと思います。特に団体競技は少子化の影響もあり、やりたくても人数の関係で指導者がいないといった問題が出てきています。

地域の体育協会と連携することにより、様々な競技での指導者の派遣が可能になり、団体競技も学校単位ではなく地域での活動になるため、人数も集まりやすくなる。

れぞれが連携できるような仕掛けを作ることができればこの「新しいスポーツ文化の確立」は難しくはないと思います。

一方教育専門職の体育教師は、例えばこの策定にあるような「ライフステージに応じた」や「スポーツ界の連携・協働」、「社会全体で」の部分で体育や保健の授業を通して担ってゆく。

今回の策定で運動と運動競技を合わせた意味での日本のスポーツ戦略がどのような方向に進んでゆくのか。私も何らかの形で、日本のスポーツ界を変える仕事をしてゆきたいですね。

特に「社会全体で」に関しては、中学校からの保健体育のなかで運動の大切さや運動競技への理解を深めるといった教育がしっかりとでき、それを総合型地域スポーツクラブが受け皿となれば、社会基盤として強固なもの形成されるのではないかと思います。

またその間の予算をどうするかということも大変なことです。いろいろなものを立ち上げるということも大変ですが、それをいかに継続させるかということの方が実は大変なことです。

時間と予算

このように考えてゆくとそれぞれの場面で専門職が関わり、そ

### Unit代表 澤野 博(さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部品となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のフィジカルコーチ。NSCA CSCS、JADA DCOなども保有。ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。0422-34-5055(Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com